



進みゆく脱アメリカのITシステムとその行く末

静かなる地殻変動と2035年の世界インフラ・シミュレーション

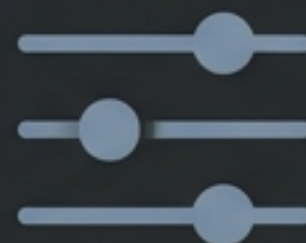


TK MAX 金融・経済レポートの視点

公開統計や機関レポートをリアルタイムで可視化する独立系非営利リサーチサイトが提供する、未来への見取り図。



ファクトの可視化:
危機を煽ることなく、中立・客観的なデータのみを提示。



未来シミュレーション:
単一の結論ではなく、ドミノ的な連鎖反応を体感できる3つのシナリオを用意。



結論はあなた次第:
提示された「パズル」をどう組み立てるかは、視聴者の皆様に委ねられています。

2026年、塗り替えられる世界のIT地図

2026

【中国】

これまで2027年2月とされていた「政府専用カスタム版Windows 10」の排除期限を2026年内へ大幅に前倒し。

これまで盤石と思われていた米国製ITプラットフォームからの離脱が、世界各地で静かに、かつ確実に進行しています。

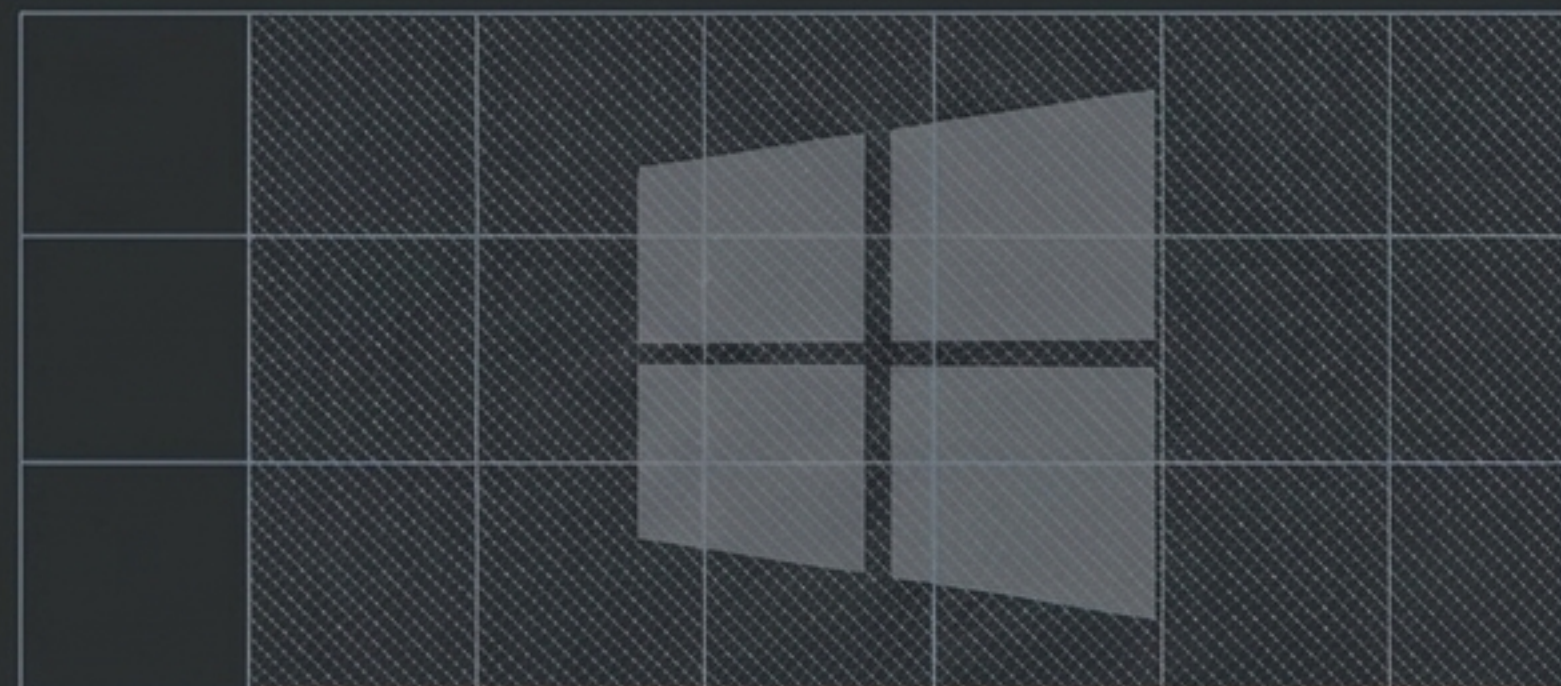
【欧州】

独・仏・デンマークの公的機関で、Microsoft製品群からの静かなる離脱が加速。

これは局地的な事象か、それとも世界的な構造変化の序章か？

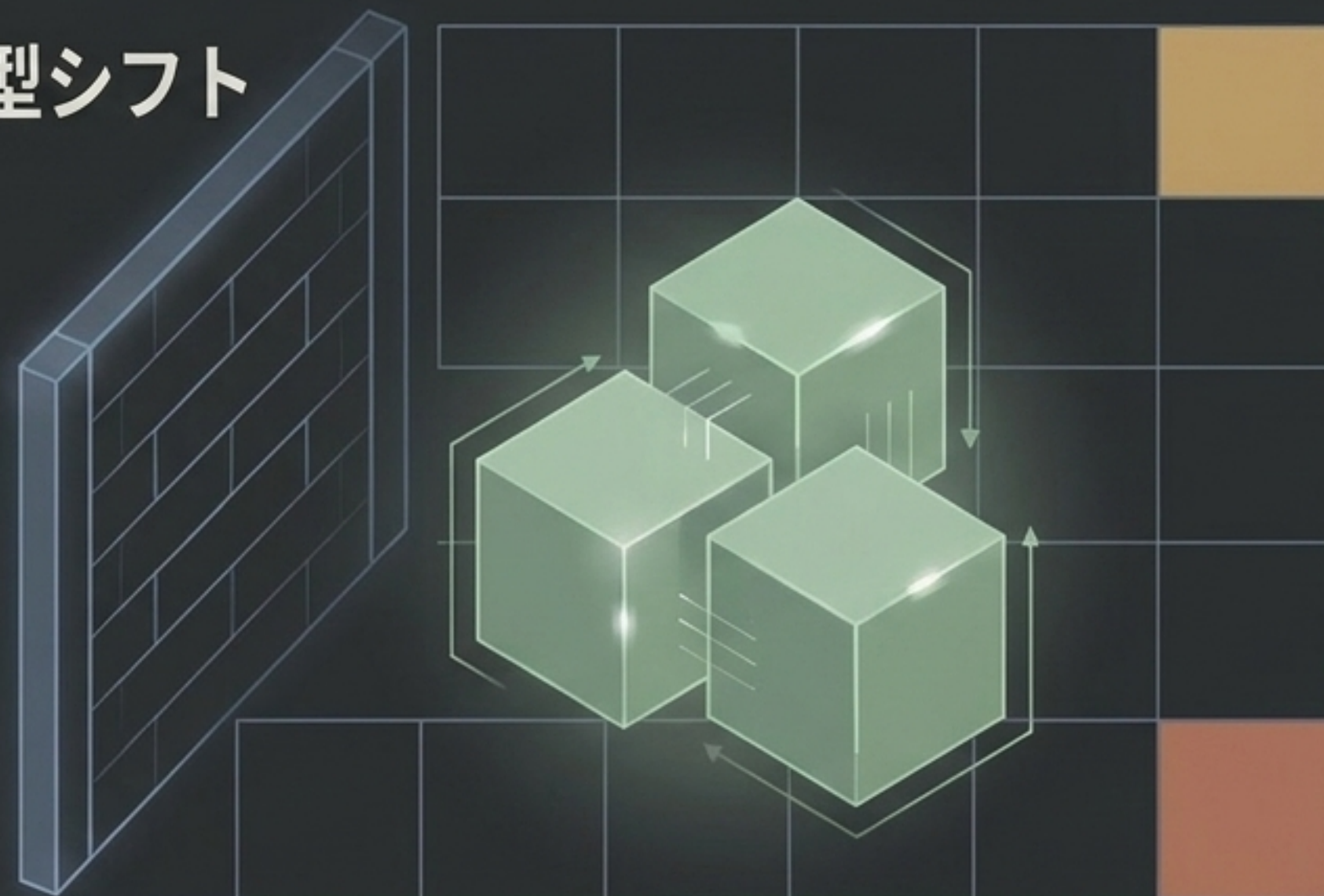
中国：国家全部主導のトップダウン型シフト

データセキュリティへの強い懸念から、国家全部の指示のもと、米国製OSからの切り替えが急速に進展しています。



排除の対象: Microsoftと中国の合併事業で開発された「政府専用カスタム版Windows 10」。

影響範囲: 機密性の高い政府機関および国有企業が対象（※一般消費者向けのWindows販売は継続）。



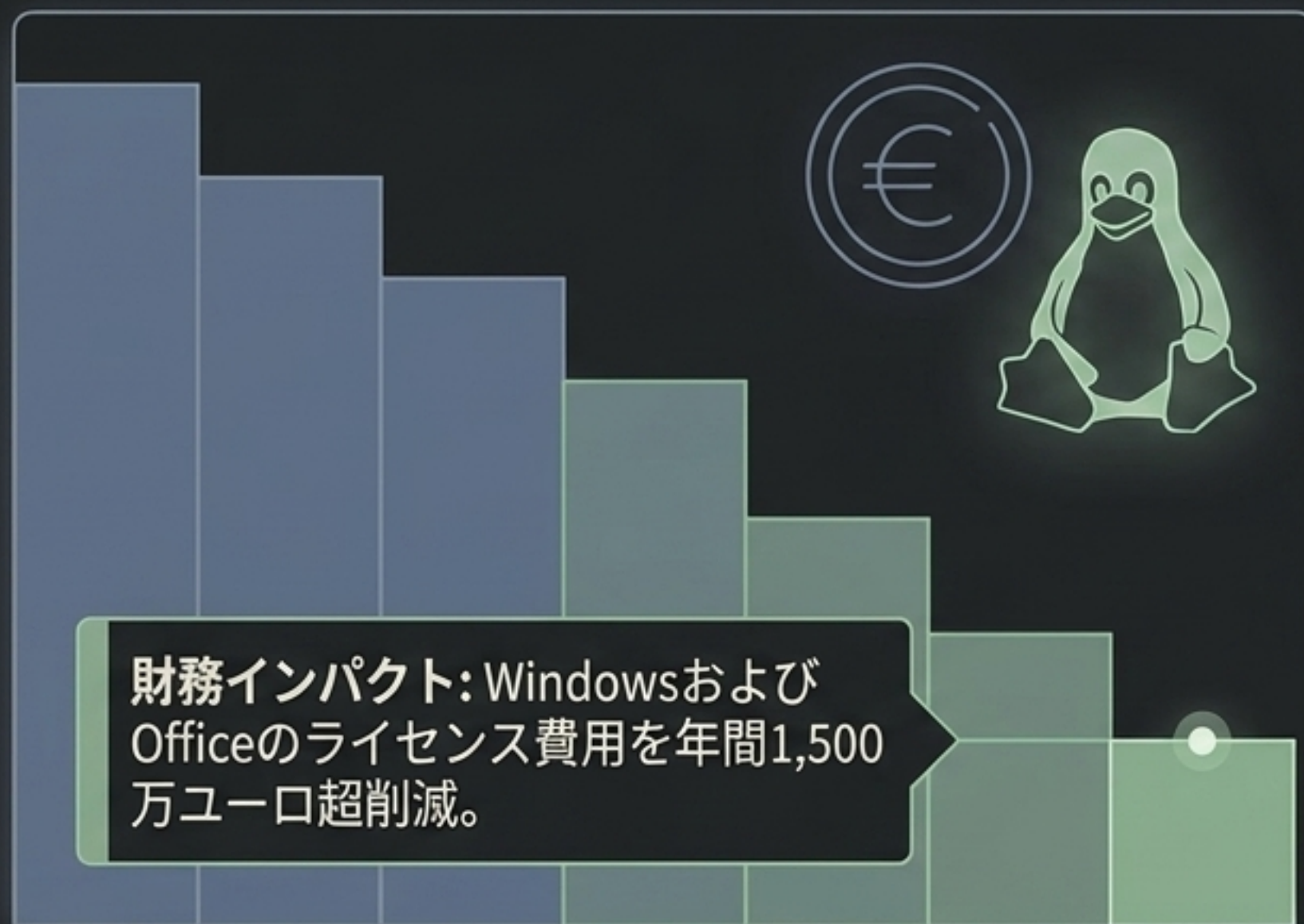
次なる一手: 単なる排除ではなく、独自のOSエコシステムへの移行がすでに実用段階に入っている。

中国を支える3つの主力国産OSエコシステム

麒麟OS (Kylin)	UOS (UnionTech)	HarmonyOS NEXT (鸿蒙)
背景: 中国電子集団 (CEC) 系・国防科技大学の系譜。	背景: コミュニティ版「Deepin」を源流に持つ武漢の統信軟件が開発。	背景: Huawei独自開発。Android (AOSP) からの完全決別。
特徴: 最も「お堅い」OS。機密情報システム向けの認証版を備える。	特徴: Windowsに近い洗練されたUI。龍芯、鯤鵬、飛騰などの国産CPUと連携。	特徴: 独自のマイクロカーネルを採用。2025年にPC版を本格投入。
ターゲット: 政府調達において最大級の実績とシェアを誇る。	ターゲット: 主に国有企業のPC導入に向けてシェアを拡大中。	ターゲット: 8000元以上の高級PC市場で既にシェア12%。同カテゴリのMateBook Foldは70%のシェアを主張。

欧州：コスト削減とデジタル主権のボトムアップ

中国が「安全保障」を動機とする一方、欧州の原動力は「コスト削減」と「特定企業からの自立」です。



ドイツ・シュレスヴィヒ=ホルシュタイン州の移行プロセス

2021年: 州議会がオープンソースソフトウェアへの全面移行を決定。

2025年現在: 移行率はすでに約80%に到達。

2026年展望: 追加で900万ユーロを投資し、完全移行を完了予定。

欧州全土へ波及する「脱Microsoft」の波

ドイツの動きは単発的な実験ではなく、欧州の公的機関全体に広がる明確なトレンドを形成しています。



🇩🇰 デンマークの追随

デジタル省が2025年内の全面的なマイクロソフト離脱を公式表明。これを受け、コペンハーゲン市やオーフス市などの主要自治体も即座に追随を開始。

🇫🇷 フランスの先行成功例

憲兵隊（ジャンダルムリー・ナシオナル）が2008年からLinux導入を推進。現在、10万台規模のデスクトップで安定運用されており、公的機関によるLinux導入として世界最大級の成功例として君臨。

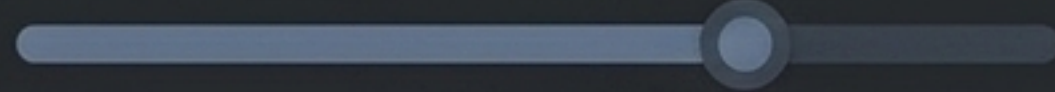
2035年を予測するシミュレーション・エンジン

点在する各国の移行事例は、2035年の世界シェアという「面」にどう影響するのか？本ダッシュボードのシミュレーターは、以下の2つの軸で未来を可視化します。マシンの移行の軸で未来を可視化します。

未来を左右する2つの変数

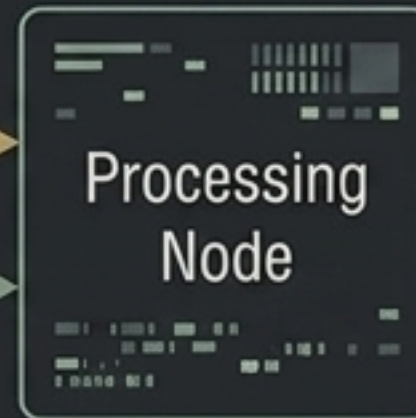
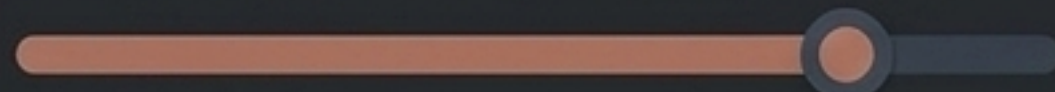
1. 非米システムの自給率

中国の国産OSや、欧州のオープンソース技術の成熟度・実用性。



2. 米国の技術規制・ライセンス制約の強度

地政学的プレッシャーや、データガバナンス規制の厳格化による反発リスク。



2035



これらの掛け合わせにより、世界インフラにおける「**米国製プラットフォームのシェア低下**」が3つのシナリオに分岐します。

米国プラットフォームシェア低下の3シナリオ（2035年）

● シナリオA：緩やかな移行

シェア推計：約80%

現状のトレンドの延長線。一部の公的機関や特定国家のみが代替OSへ移行し、民間グローバル市場への影響は限定的に留まる。

● シナリオB：デジタル・ブロック化

シェア推計：約55%

地政学リスクのさらなる高まりにより、中露およびグローバルサウスの一部で完全な技術圏の分断（ブロック化）が発生する。

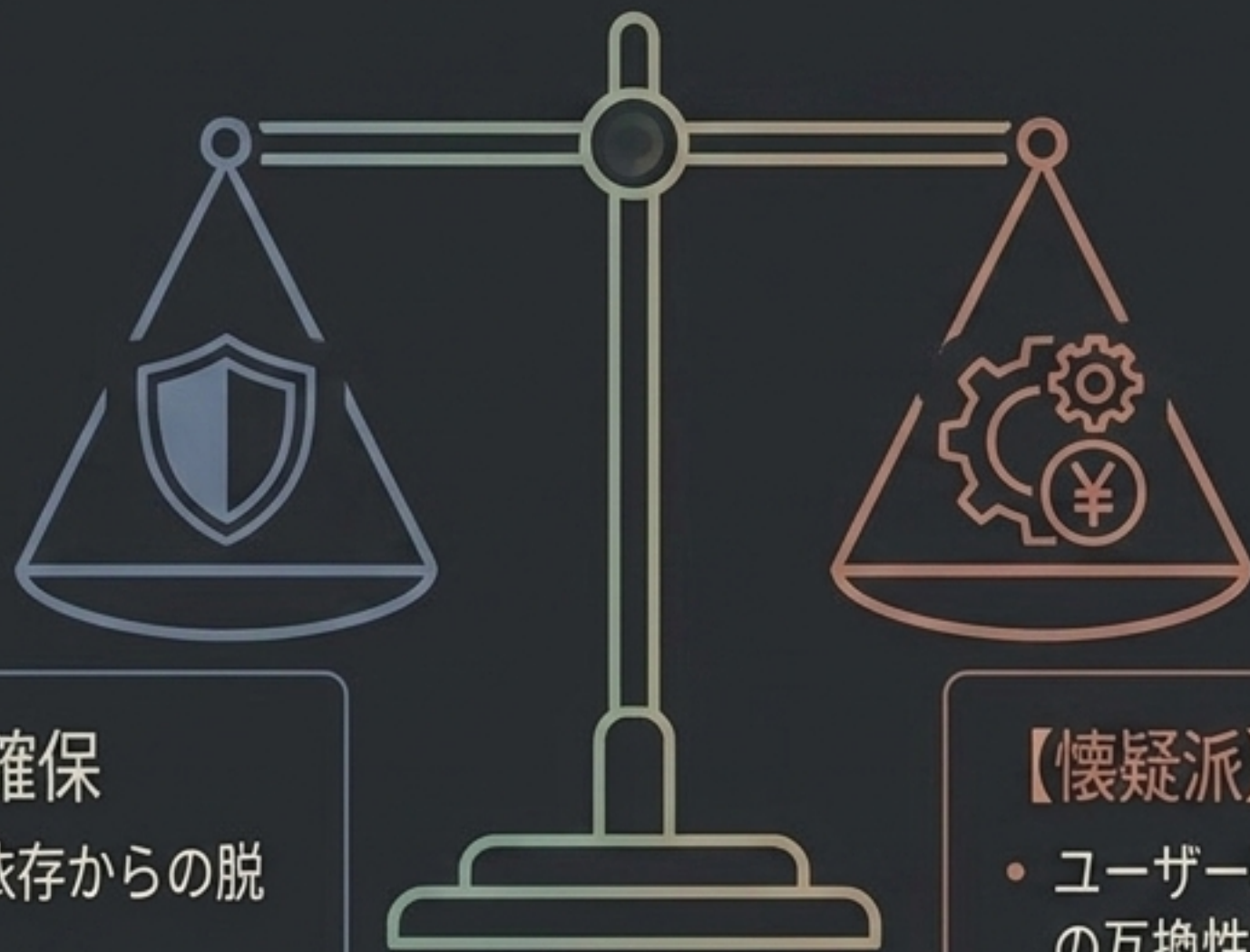
● シナリオC：離脱ドミノの激化

シェア推計：約35%

欧州のオープンソース化が完全に成功・波及し、さらに米国のライセンス制約強化への反発から、世界的な脱米国インフラが連鎖的に引き起こされる。

移行のジレンマ：この地殻変動をどう評価すべきか

特定の結論を急ぐのではなく、構造的なメリットとデメリットの双方を注視する必要があります。



【肯定派】 デジタル主権の確保

- 特定の一国のプラットフォーム依存からの脱却。
- 突然のライセンス変更やデータガバナンス規制
- 突然のライセンス変更やデータガバナンス規制に振り回されない「代替選択肢」を持つこと自体が、 国家安全保障上の高い価値を持つ。

【懐疑派】 移行コストと互換性の壁

- ユーザー再教育コストや既存業務システムとの互換性問題など、見えざる莫大な移行コスト。
- コスト削減が明確なドイツの事例でも、移行完了には「数年単位」の時間を要す。一朝一夕の脱却は極めて困難。

パズルをどう組み立てるか

中国のトップダウンによる
ハードな離脱。

欧州のボトムアップによる
ソフトな離脱。

HarmonyOSが掲げる「世界シェア3分の1」という強気な目標と、
現実の移行コストの壁。

これらは、2035年に向けて別々の局地的な事象として留まるのか。
それとも、互いに共鳴し、連鎖的な「離脱ドミノ」を引き起こすのか。

未来のITインフラの姿を判断するのは、データを受け取ったあなた自身です。

免責事項 (Disclaimer)

- 本ページおよび音声解説は、公開されている情報に基づく独立した分析・研究目的のコンテンツです。
- 特定の投資助言・政策提言を目的としたものではなく、内容の完全な正確性を保証するものではありません。
- ダッシュボード内のシミュレーターの試算値は、独自の簡易モデルによる機械的なシナリオ延長であり、各企業・各国政府の公式シェア目標値等を示すものではありません。